



(←HP)

「自分の一步」

校長 菅谷和孝

3月13日、卒業証書授与式が挙行され、100名の卒業生が藤久保中学校を巣立っていきました。3年間の学びを終え、それぞれが新たな道へと歩み出しました。卒業生の前途が希望に満ちたものであることを心から願っています。

さて、まもなく今年度が終わろうとしています。春季休業が終わると、生徒たちは一つ上の学年へ進級し、新しい1年生が入学してきます。別れがあれば出会いがあり、学校はこうして毎年新しい春を迎えます。

今年度、本校の登校日は約200日でした。私たちの一年は365日ありますが、学校生活はこの約200日の積み重ねでできています。入学式の頃を思い返すと、生徒たちはこの200日で本当に大きく成長しました。

藤久保中学校の生徒には、行事に本気で取り組む姿、仲間を思いやる姿、素直に努力する姿など、誇れる良さがたくさんあります。こうした良さは本校の大切な財産です。そしてこれからの時代、その良さを土台にしながら、さらに大切にしていきたい力があります。

それが、自分たちで考え、行動する自治的な力です。

経済学者の成田悠輔氏は、社会を動かす力として「意味不明な勇氣」という言葉を紹介しています。合理的に考えると成功するか分からないことでも、「まずやってみよう」と一歩踏み出す勇氣のことです。新しい挑戦は、最初は周りから見ると少し「意味不明」に見えることもあります。しかし、その一歩が新しい価値を生み出していくのだと言います。

埼玉県立所沢高等学校は、生徒の自治を大切にする学校として知られています。生徒たちは学校生活について自分たちで考え、議論し、学校の仕組みや行事に主体的に関わっています。こうした生徒主体の活動は全国的にも高く評価され、2022年の「日本生徒会大賞」で特別賞を受賞しています。生徒が学校の課題について議論し、提案し、改善していく姿は、生徒自治の一つの姿と言えるでしょう。

藤久保中学校でも、学校生活をよりよくしていく主役は生徒自身です。先生から示されたことをこなすだけでなく、「もっとこうしたらよいのではないか」と考え、仲間と話し合い、行動してみる。いわば、藤久保中学校を自分たちの力でよりよくしていこうとする「藤中 Action」です。そうした行動の積み重ねが、学校を前に進めていきます。

さらに、その力は学校の中だけにとどまるものではありません。地域の中でできることを考え、行動することも大切な学びです。地域の方々と関わりながら、自分たちの力でできることを見つけていく経験は、生徒にとって大きな成長につながります。

4月から藤久保中学校には、新しい1年生が入学してきます。新2年生は後輩を迎える先輩となり、新3年生は学校を中心として藤久保中学校を支える存在になります。来年度の登校日も約200日です。この200日の一日一日が、藤久保中学校をつくっていきます。



来年度は、新2・3年生が中心となり、生徒たちが自分たちで考え、挑戦し、「当たり前のことを当たり前以上に行う」姿が少しずつ増えていくことを願っています。そしてその挑戦は単なる思いつきではなく、周囲への影響や責任を考え、多角的に物事を捉えながらよりよい選択をしていく主体的な活動となるよう、また、仲間や学校、そして地域をよりよくしていこうとする建設的で持続可能な行動につながっていくことを期待しています。

4月から始まる新しい一年。生徒一人一人の小さな挑戦が積み重なり、藤久保中学校がさらに一段成長し、進化していく一年になることを楽しみにしています。

～よりよい学校にするのは、特別な誰かではなく、自分自身が踏み出すその小さな一歩～

最後になりますが、保護者・地域の皆様には、この一年間、本校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。来年度も、生徒たちの成長のために、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。